

2018 年度 メディア基盤センター年報

2020 年 4 月 30 日

YAMAGUCHI UNIVERSITY

山口大学大学情報機構メディア基盤センター



1. 巻頭言	2
2. センターの活動	4
2.1. 今年度のプロジェクト概要	4
2.2. 各プロジェクト報告	6
2.2.1. 広報改善プロジェクト	6
2.2.2. Moodle 関連プロジェクト	7
2.2.3. 学認フェデレーションプロジェクト	8
2.2.4. 学内利用者のための教職員ポータルの更新	10
2.2.5. 大学間バックアッププロジェクト	12
2.2.6. 学内バックアッププロジェクト	13
2.2.7. ISMS 研究会	14
2.2.8. 電力スマートグリッドの管理・保守報告書	15
2.2.9. ネットワークマナーブック改訂	16
2.2.10. 演習用計算機システムの管理・保守	17
2.2.11. データサイエンスに関する調査・検討	20
2.2.12. 衛星データ解析・情報システム環境整備支援	22
2.2.13. 衛星リモートセンシングデータ利用推進	24
2.2.14. メディア基盤センターの BCP	26
2.2.15. コンテンツアーカイブシステム開発プロジェクト	28
2.2.16. 講義収録ソフトウェア開発プロジェクト	30
2.2.17. UPKI 電子証明書発行申請サービス	31
2.2.18. IC カード	33
2.2.19. TV 会議及び遠隔講義システム維持・保守	35
2.2.20. 迷惑メール対策システム	38
2.2.21. 全学ネットワークの維持・保守	40
2.2.22. 各種サーバ (大容量サーバ・メールサーバ等) の維持・保守	42
2.2.23. サーバ室主要部分の設備維持	44
2.2.24. 高速計算サービス運用プロジェクト	46
2.2.25. IC カード出席管理システムを用いた登校状況の確認実験	48
2.2.26. ウェブメールの管理・保守	49
2.2.27. 常盤センターサーバー室空調保守報告書	51
3. センタースタッフ紹介	52
3.1. スタッフ一覧	52
3.2. スタッフ紹介	53

1. 巻頭言

メディア基盤センター長
多田村克己

2018 年度は、「整備」の年であったと言えます。

まず、無停電電源装置(UPS)や基幹ネットワーク関連機器など、本学の情報通信基盤の中核をなす機器を更新しました。これにより、大規模な自然災害や停電などの発生時に情報サービスの基盤が停止するリスクを大幅に低減可能となるとともに、将来の需要を見込んだ通信路の容量拡大を実現できました。今後、ビッグデータや IoT 等をキーワードとする教育・研究が一層盛んになると考えられますが、それらに応える事のできる情報通信基盤の整備を計画的に進めていく予定です。

次に、本学においてこれまでに制定・施行してきた情報セキュリティ関連のルールを整理・統合したガイドラインを制定し運用することを事務部門で先行して実施してきましたが、今年度から教職員と学生に対してもそれぞれに向けたガイドラインを制定・実施することになりました。新しい情報セキュリティガイドラインの制定とその運用は一つの区切りではありますが、これからは大学全体の情報セキュリティレベルの向上のために、部局毎に PDCA サイクルを回す、すなわち時代の流れに合わせて絶え間なくガイドラインの見直しを行っていくことになると考えます。メディア基盤センターでは、10 年以上継続して認証を受けている情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の構築・運用で得られた知見を、各部局における情報セキュリティ向上に反映すべく活動しておりますが、今後より一層の連携を図るよう注力致します。

もう 1 件、これまでに強い利用希望が寄せられていました、国立情報学研究所(NII)がサービスを提供している eduroam を利用可能としました。eduroam は、大学等の高等教育機関内の無線 LAN を相互に利用可能とするシステムです。したがって、eduroam サービス参加大学が提供している eduroam アクセスポイントを経由して、本学のログイン ID で認証を受けインターネットに接続可能であり、逆に eduroam サービス参加大学・研究機関所属の訪問者が自らの組織が発行した ID で本学の無線 LAN を利用できます。ただし、eduroam サービスを利用するためには、事前に利用予定のノート PC や携帯端末の設定が必要になります。設定手順の詳細については、メディア基盤センターのトップページから「サービスメニュー」を選択して頂き、「eduroam 利用について」に記載の内容を参照してください。なお、メディア基盤センターでは、学内で接続テストを実施可能な環境を用意しておりますので、接続確認用にご利用ください。

今年度は、情報セキュリティに関して、昨年度の WannaCry のような大きく社会問題化した事件はありませんでしたが、日常的に不正アクセスや web ページの改ざんなどが発生していることは皆様ご存じのとおりです。本学においては、全学的な情報セキュリティインシデント即応チーム(CSIRT)が一昨年度発足し、メディア基盤センター教職員は、本学 CSIRT の中核メンバーとして活動しております。本学では、1 年次の共通教育科目ですべての学生に対して情報セキュリティ教育を実施し、在学中は無料でインストール可能なウイルス対策ソフトを詳細なインストール手順を付けて提供するなど、情報セキュリティ対策を充実させてきています。しかしながら、学生による情報セキュリティインシデントの発生状況はむしろ悪化しています。情報セキュリティインシデントに関与した学生には、情報セキュリティ対策の重要性については理解しているものの、それが具体的な行動に結びついていない傾向が見られました。今後、学生を含む大学全体として

の情報セキュリティレベル向上のためには、入学時だけでなく在学中も継続的な情報セキュリティ対策に関する教育が必要と考えられます。各部局主導の下、メディア基盤センターも最大限の支援を致す所存です。

今後とも引き続き、メディア基盤センターの活動に多大なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2. センターの活動

2.1. 今年度のプロジェクト概要

メディア基盤センターの日常業務，試作作業，開発・研究等の諸活動の予算や実施内容を透明化すべく，各教職員が関わっているプロジェクト等の申請（申告），及び報告書提出を義務付けています。

全部で 27 件のプロジェクトが活動致しました。これら 27 件のプロジェクト名称とメンバーは表 1 の通りです。

表 1 センタープロジェクト一覧

No.	プロジェクト名称	代表者	メンバー
1	広報改善プロジェクト	多田村 克己	齊藤、王、末長
2	Moodle 関連プロジェクト	王 躍	齊藤
3	学術認証フェデレーションプロジェクト	為末 隆弘	久長、王、金山、西村、末長
4	学内利用者のための教職員ポータルの更新	久長 穰	金山、王、西村、奥本、守永、東
5	大学間バックアッププロジェクト	為末 隆弘	多田村、久長、齊藤、西村、金山、末長
6	学内バックアッププロジェクト	為末 隆弘	久長、西村、金山、末長
7	ISMS 研究会	王 躍	久長
8	電力スマートグリッド開発	西村 世志人	久長、為末、今岡、齊藤、江口、末長
9	ネットワークマナーブック改訂	齊藤 智也	國分
10	演習用計算機システムの管理・保守	為末 隆弘	久長、王、齊藤、江口、金山、西村、末長、奥本、守永、東
11	データサイエンスに関する調査・検討	今岡 啓治	多田村、久長、為末、江口、末長
12	衛星データ解析・情報システム環境整備支援	多田村 克己	今岡、久長、為末、江口、西村、末長、金山、守永
13	衛星リモートセンシングデータ利用推進	江口 毅	今岡、久長、為末、西村、金山、末長
14	メディア基盤センターの BCP	江口 毅	今岡、久長、西村、末長
15	コンテンツアーカイブシステム開発プロジェクト	齊藤 智也	久長、王
16	講義収録ソフトウェア開発プロジェクト	齊藤 智也	久長、王
17	UPKI 電子証明書発行申請サービス	為末 隆弘	久長、王、金山、西村、末長、奥本、守永、東
18	IC カード	久長 穰	王、為末、西村、金山
19	TV 会議及び遠隔講義システム維持・保守	久長 穰	為末、王、齊藤、西村、金山、末長、奥本、守永、東
20	迷惑メール対策システム	久長 穰	為末、西村、末長
21	全学ネットワークの維持・保守	久長 穰	為末、王、今岡、齊藤、江口、西村、金山、末長、奥本、守永、東

22	各種サーバ(大容量サーバ・メールサーバ等)の維持・保守	久長 穰	為末、齊藤、西村、金山、末長
23	サーバ室主要部分の設備維持	久長 穰	為末、西村
24	高速計算サービス運用プロジェクト	今岡 啓治	久長、江口、西村、末長、奥本
25	IC カード出席管理システムを用いた登校状況の確認実験	齊藤 智也	多田村、久長、為末、西村
26	ウェブメールの保守・管理	末長 宏康	久長、為末、金山、西村
27	常盤センターサーバー室空調保守	西村 世志人	久長、為末、今岡、齊藤、末長、奥本



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2. 各プロジェクト報告

2.2.1. 広報改善プロジェクト

【NP.業務課題】

多田村 克己

メディア基盤センター・センター長

tadamura@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：小串センターのコンテンツの充実等

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

担当：常盤センターのコンテンツの充実等

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：コンテンツの整理及びマルチデバイス対応

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.1.1. プロジェクト概要

本プロジェクトでは、メディア基盤センターの広報体制の見直しを行い、Web ページの充実、年報の発行、各種コンテンツの整理・充実を図ることを目的とする。特に、利用者にとって欲しい情報をわかりやすく提供する仕組みの構築と、センターで行われているサービスや業務内容の公開・広報に力点を置く。活動内容

2.2.1.2. 活動内容（具体的な実現方法など。学外公開の場合、表を削除のこと）

2.2.1.2.1. 広報物制作

2017 年度のメディア基盤センター年報を制作し、センターの Web サイト上で公開した。

2.2.1.2.2. メディア基盤センターWeb ページの改善

情報が古くなっている Web ページや制作されていない Web ページ、リンク切れについて調査し、該当箇所
の修正や不要な Web ページの廃止などを進めた。

また、メールソフトの推奨設定、ウィルス対策ソフトのインストール手順、不要なソフトウェアのインストールに関する注意喚起、PC の初期設定などのページを制作した。

2.2.1.3. 今後の展望（次年度に向けて、研究計画や実現方法など）

2019 年には学内のネットワーク利用ルールの制定、Windows 7 の延長サポート終了への対応に加え、一部サービスの Web 申請制への移行が計画されている。これらのイベントやルール制定に応じて、学内の利用者への適切な情報発信に努める。

平成 31 年 4 月 2 日

2.2.2. Moodle 関連プロジェクト

【NP.業務課題】

王 躍

メディア基盤センター・准教授

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

担当：開発のマネージメント

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.2.1. プロジェクト概要

現在仮想サーバに移行した Moodle2 への移行を促進しながら、山大の Moodle サービスをさらに充実させるため、利用者支援の視点からより安定な運用とより便利な利用を目指します。

また、JOCW や JM00C などの新しいコンセプトが e ラーニングに新しい可能性をもたらすことをかんがみ、Moodle の利用者が多くなり、多種多様な要望が出されています。その中でも特に注目すべき機能として、データ分析による教育評価が重要視されています。そこで、その教育評価のための拡張機能を検討します。この機能が実現すれば、学生の到達度の向上や、教員の授業指導の改善が期待されると考えられます。本プロジェクトは、利用者の必要に応じてこのような拡張機能開発も行います。

2.2.2.2. 活動内容

- (1) Moodle サービスの講習会を 4 月 26 日と 27 日にそれぞれ常盤キャンパスと吉田キャンパスで行いました。
- (2) Moodle2 と連携するための動画配信システム (Kaltura CE) の改良
- (3) Moodle2 の DB サーバ増強のためのテスト実験を行なった。
- (4) Moodle の動向に関する情報の収集と議論。

2.2.2.3. 研究報告

2019 年 2 月 27 日から 3 月 1 日に開催された MoodleMoot Japan 2019 国際学会において、「Moodle 用データベースのシステム構成に関する検討」を題とする講演を行い、活動 (3) と (4) に関することを発表しました。

2.2.2.4. 参考文献

MoodleMoot Japan (日本ムードル協会) : <https://moodlejapan.org/>

2019/4/22

2.2.3. 学認フェデレーションプロジェクト

【D.業務・教育研究課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：認証基盤構築・試行運用支援

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：認証基盤構築・試行運用支援

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：認証基盤構築・試行運用支援

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：認証基盤構築・試行運用支援

momo@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：認証基盤構築・試行運用支援

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.3.1. プロジェクト概要

全国の大学等と国立情報学研究所(NII)の連携によって、学術 e-リソースを提供・利用する大学・機関・出版社等から構成される学術認証フェデレーションの構築・運用が本格的に開始されている。本年度も試行運用フェデレーションに継続参加し、ダミーデータによる実証実験に基づく技術的検討を引き続き行う。また、就学支援システムや Moodle などの学内 Single-Sign-On(SSO)に向けた Idp・Sp 連携について確認する。さらに、大学等教育研究機関の間でキャンパス無線 LAN の相互利用を実現する eduroam についても検討する。

2.2.3.2. 活動内容

- ・ 学術認証フェデレーション（学認）のテストフェデレーション継続
 - Sp・Idp サーバを試行運用し、ダミーデータによる実証実験
 - 学内 SSO に向けた Sp サーバとの連携確認
 - 技術・運用面における問題点の検討
- ・ 学認の運用フェデレーション継続のための Idp サーバの維持・管理
 - 国立情報学研究所 クラウドゲートウェイサービス
 - 独立行政法人科学技術振興機構 researchmap
 - eduroam サービスへの参加

2.2.3.3. 今後の展望

- ・ 学内 SSO に向けた Sp サーバとの連携確認
- ・ 学術認証フェデレーション本格運用への問題点

平成 31 年 4 月 9 日



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.4. 学内利用者のための教職員ポータルの更新

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：

momo@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

morinaga@yamaguchi-u.ac.jp

東 美織

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

harigae@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.4.1. プロジェクト概要

教職員ポータルは、平成17年の電子計算機システムの更新に伴い、事務系のグループウェアを更新する形で、学内システムとして導入した。教職員ポータルには次の機能を有しており、事務業務での利用頻度は高い。

掲示板、施設予約、共通フォルダ、スケジュール管理、諸手続、学内委員会資料配布、通知集、施設予約は、第1, 2TV 会議室、事務局会議室、医学部、工学部等の会議室の予約に利用されている。共通フォルダは、各事務文書の作成、保管等に利用されている。スケジュールは、学長、副学長、部局長等のスケジュール管理に利用されている。

これまでは、事務系のシステムとして運用していたが、多くの利用者の要望の応えられるものに更新を進める。

2.2.4.2. 活動内容

1. 教職員ポータルについて、改修要望に基づき改修を進めた。
2. 事務業務で用いられている情報を保存するために、事務専用 LAN 用の共通フォルダーの作成を進めた。
3. 共通フォルダの使用量増大に伴い増強を行った。



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.5. 大学間バックアッププロジェクト

【NP.業務課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

多田村 克己

メディア基盤センター・センター長

担当：統括

tadamura@yamaguchi-u.ac.jp

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：統括補佐

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

担当：運用・保守

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：運用・保守

momo@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：運用・保守

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：運用・保守

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.5.1. プロジェクト概要

BCP の観点から、本学内の各種情報システムのバックアップについて、ある一定のセキュリティ水準を保ちながら大学間で実現可能であることを技術的に検証する。

2.2.5.2. 活動内容

- 大容量データバックアップのための高速なデータ転送環境の整備
 - バックアップシステムの構築・運用手順の確認と見直し
 - Web サイトなどのコンテンツを蓄積するキャッシュサーバを利用したアクセス負荷軽減やバックアップの有効性に関する検討
- 鹿児島大学との相互バックアップの運用継続に関する検討

平成 31 年 4 月 9 日

2.2.6. 学内バックアッププロジェクト

【NP.業務課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：統括

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：運用・保守

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：運用・保守

momo@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：運用・保守

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.6.1. プロジェクト概要

学内情報システムのデータバックアップサービスを提供する。

2.2.6.2. 活動内容

以下の情報システムのデータバックアップを行った。

- ・ 財務会計システム
- ・ 教務システム
- ・ 医療情報システム

2.2.6.3. 今後の展望

- ・ 安定・継続的なバックアップサービスの提供
- ・ バックアップ対象システムの範囲拡大

平成 31 年 4 月 9 日

2.2.7. ISMS 研究会

【D.業務・教育研究課題】

王 躍

メディア基盤センター・准教授

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

研究会幹事校対応

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.7.1. プロジェクト概要

情報系センター協議会の中の ISMS 研究会の幹事校として全国国立大学の ISMS 普及活動を行っている。

2.2.7.2. 活動内容

(1) 毎年秋の学術情報処理研究会において、ISMS 研究会セッションを設定している。

2018 年度の（第 16 回）ISMS 研究会は、9 月 19 日に琉球大学において開催されました。年々、凶悪化、巧妙化しているインターネット上の脅威に対して、情報セキュリティ強化の取り組みはますます重要になっている中、各大学においての情報セキュリティ対策状況また最新動向等の情報交換と ISMS の活動実績報告を行ないました。また、本学の ISMS 適用範囲縮小事例についての報告を行った。

(2) 次回の ISMS 研究会は 2019 年 6 月 13 日(木)に小樽商科大学で開催予定です。

2.2.7.3. 参考文献

ISMS 研究会 HP

<https://isms.cii.shizuoka.ac.jp/isms/>

2019/4/22

2.2.8. 電力スマートグリッドの管理・保守報告書

【NP.業務課題】

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

momo@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：管理・計画

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

爲末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：管理・計画

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

今岡 啓治

メディア基盤センター 准教授

担当：管理・計画

k.imaoka@yamaguchi-u.ac.jp

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

担当：管理・計画

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：計画の実施

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.8.1. プロジェクト概要

平成 25 年度、サーバ室消費電力の省エネ化および大規模災害時の電力に対する耐障害化を目的に、ディーゼル発電機、太陽光と風力による発電装置、無停電源装置（UPS）が導入された。この各機器の管理・保守を行う。

2.2.8.2. 活動内容

ディーゼル発電機、太陽光と風力による発電装置、無停電源装置（UPS）の保守点検の実施を行い、システムに障害が無いことを確認した。発電装置は、毎月常盤地区電気設備点検時に、業者に目視確認と 5 分程度のテスト稼働を実施している。

平成 30 年 7 月 7 日くらいに太陽光発電のパワーコンディショナーの故障があり、発電されていない状況となっていた。平成 30 年 12 月 4 日に業者に障害確認と故障個所の修繕作業を実施してもらい復旧した。故障個所の原因不明のため、今回は無償保証で対応いただいた。

2.2.8.3. 今後の展望

引き続き、保守点検などを実施し、システムに障害が起こらないように対応する

平成 31 年 4 月 19 日

2.2.9. ネットワークマナーブック改訂

【NP.業務課題】

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

國分 倫子

情報環境部情報企画課情報基盤係・事務補佐員

担当：挿絵制作

n.kokubu@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.9.1. プロジェクト概要

共通教育の「情報リテラシー演習」および「情報セキュリティ・モラル」の講義で副教材として利用されている「ネットワークマナーブック」の改善活動を行う。

2.2.9.2. 活動内容

昨年度は、ネットワークマナーブックに使用されている挿し絵の一部を変更した。また、Windows 10 のアップデート、ならびにウィルス対策ソフトウェア（エフセキュア製品）の刷新に伴い、関連する文章及び図を修正した。また、これらの修正を反映させた 2018 年度版のネットワークマナーブックを発行した。

今年度は、ウィルス対策ソフトウェア（エフセキュア製品）のライセンスの更新方法が変更されたことを踏まえて、該当箇所の文章を修正した。また、Windows 10 の大型アップデートに伴い、マナーブックの後半に掲載している図及び文章を修正した。また、メールサーバ等の記載内容について修正し、表紙の装丁も更新した。

2.2.9.3. 今後の展望

2019 年度には、学生向けのネットワーク利用ルールが制定される予定である。このルールが制定された場合は、ルールの紹介を主とした冊子に変更する予定である。

平成 31 年 4 月 2 日

2.2.10. 演習用計算機システムの管理・保守

【NP.業務課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：管理

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：管理

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

担当：管理

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

江口 毅

メディア基盤センター・助教

担当：保守

eguchi.t@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：管理・保守

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：管理・保守

momo@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：管理・保守

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：保守

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：保守

morinaga@yamaguchi-u.ac.jp

東 美織

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：保守

harigae@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.10.1. プロジェクト概要

電子機システムにおける演習用端末・プリンタの管理・保守を行う。また、演習端末へのソフトウェアの導入・更新等を実施する。CBT 試験のための演習端末の環境構築・変更を行う。

2.2.10.2. 活動内容

主なものは次の通りである。

- 電子計算機システム 2018 年度リフレッシュ作業（秋季・春季）
 - 共通教育棟 21 番教室：8 月 29 日(水)，30 日(木)・3 月 7 日(木)，8 日(金)
 - 図書館 アカデミック・フォレスト、りぶプラザ、グループ学習室：8 月 30 日(木)，31 日(金)・3 月 20 日(水)，22 日(金)，25 日(月)
 - メディア棟 演習室 1：8 月 27 日(月)，28 日(火)・3 月 27 日(水)，28 日(木)
 - メディア棟 演習室 2：8 月 29 日(水)・3 月 29 日(金)
 - 理学部 2 号館 演習室：9 月 25 日(火)，26 日(水)・3 月 25 日(月)，26 日(火)，27 日(水)
 - 人文学部研究棟 第 4 講義室：9 月 3 日(月)，4 日(火)・3 月 22 日(金)，25 日(月)，26 日(火)
 - D 講義棟 演習室：9 月 27 日(木)，28 日(金)・3 月 18 日(月)，19 日(火)
 - 図書館 情報ラウンジ：9 月 5 日(水)，6 日(木)・3 月 13 日(水)，14 日(木)
 - 図書館 インフォメーションルーム：9 月 6 日(木)，7 日(金)・3 月 14 日(木)，15 日(金)
 - 知能情報演習室(プリンタのみ)：9 月 6 日(木)・3 月 14 日(木)
 - 基礎研究棟 演習室：9 月 11 日(火)，12 日(水)・3 月 14 日(木)，15 日(金)
 - 図書館 情報ラウンジ：9 月 11 日(火)・3 月 14 日(木)
 - 大学情報機構プリンタサーバ：9 月 26 日(水)・3 月 20 日(水)
 - ライセンスサーバ(メディア棟演習室の ArcGIS)：9 月 26 日(水)・3 月 20 日(水)
 - ライセンスサーバ(GENETYX, MATLAB, SPSS)：9 月 26 日(水)・3 月 20 日(水)
 - ライセンスサーバ(Mathematica, ArcGIS, ANSYS)：9 月 27 日(木)・3 月 19 日(火)
 - アプリケーションサーバ：9 月 27 日(木)・3 月 19 日(火)
 - ソフトウェアインストール要望：4 件・7 件
- 獣医学部 CBT 試験
 - 環境構築・準備：5 月 7 日，10 日，11 日，6 月 29 日
 - 体験受験会：5 月 12 日
 - 本試験：6 月 30 日
- 医学部 CBT 試験
 - 環境構築・準備：9 月 27 日，28 日，12 月 4 日，1 月 7 日
 - 集中動作試験（手動）：10 月 23 日
 - 集中動作試験（自動）：10 月 30 日
 - 体験テスト：11 月 30 日
 - 本試験：12 月 5 日
 - 追・再試験：1 月 8 日

2.2.10.3. 今後の展望

- ・ 医学部 CBT 試験の安定運用
- ・ 共同獣医学部 CBT 試験の安定運用
- ・ 定期的な巡回体制に関する検討

平成 31 年 4 月 9 日



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.11. データサイエンスに関する調査・検討

【業務】

今岡 啓治

メディア基盤センター・准教授

k.imaoka@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

多田村 克己

メディア基盤センター・センター長

担当：活用可能性調査

tadamura@yamaguchi-u.ac.jp

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：活用可能性調査

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

爲末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：活用可能性調査・解析基盤調査

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

江口 毅

メディア基盤センター・助教

担当：活用可能性調査・解析基盤調査

eguchi.t@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：解析基盤調査

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.11.1. プロジェクト概要

人工知能技術の再燃とビッグデータの普及等が渾然一体となり、データサイエンス分野が脚光を浴びて久しい。国内諸大学ではデータサイエンスを核とした学部・学科の再編などが既に進んでおり、山口大学でもデータサイエンスリテラシー科目の導入などが始まった。学内におけるデータサイエンス関連基盤技術の向上を目的として、全学組織として取り組むべき活動や解析ツール群などの調査・検討を行う。

2.2.11.2. 活動内容

- (1) データサイエンスに関連した無償解析ツールとして、統計分析ツール R 言語と深層学習フレームワーク Chainer を取り上げ調査・検討を行った。統計分析ツール R 言語については、データサイエンスリテラシー科目として本年度から開始された「データ科学と社会 II」の専門データサイエンス講義の一部に取り込み、決定木の演習を試行した。アルゴリズムの理解には繋がらないものの、多様なパッケージが活用でき、簡易なプログラミングでデータサイエンスを体験するツールとして適している。大規模データ処理やループ計算に多少の難はあるが、可視化機能が優れており本格的な研究利用にも適している。深層学習フレームワーク Chainer については、九州大学情報基盤研究開発センターで実施された「ディープラーニングのための GPU 講習会」に参加すると共に、ひまわり 8 号の赤外輝度温度データから降水量を推定する学習へ実際に適用し、利用方法の詳細を調査した。類似の機能を持つ

Keras (Tensorflow をバックエンドとする深層学習ライブラリ) と比較し、初学者への敷居はやや高いように感じられるが、柔軟性には優れていると考えられる。いずれのツールも九州大学スーパーコンピュータシステム ITO 上で利用可能である。Chainer は Multi-GPU で利用可能であり、学内の研究において一層の活用を図るべきであろう。

- (2) 学内データ分析の一例として、計算機システム管理ログ・各種モニタデータ解析による運用支援等、大学情報機構内のデータ分析可能性の検討を継続したが、実解析には至っていない。

平成 30 年 4 月 17 日



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.12. 衛星データ解析・情報システム環境整備支援

【業務】

今岡 啓治

メディア基盤センター・准教授

k.imaoka@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

多田村 克己

メディア基盤センター・センター長

担当：部局間調整

tadamura@yamaguchi-u.ac.jp

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：解析環境検討

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

爲末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：解析環境検討

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

江口 毅

メディア基盤センター・助教

担当：解析環境検討・解析ツール支援

eguchi.t@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：解析環境検討

momo@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：解析環境検討

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：解析ツール支援

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：情報公開促進

morinaga@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.12.1. プロジェクト概要

政府機関の地方移転の一貫として、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の西日本衛星防災利用研究センターが山口県産業技術センター内に開設され、衛星データ・解析サーバがメディア基盤センターに設置された。また、学内組織として応用衛星リモートセンシング研究センター（YUCARS）が新設され、学内および JAXA との協力により研究成果を挙げることが期待されている。YUCARS の情報システム部門が行う学内の人工衛星リモートセンシングデータ解析・情報システム環境の整備・運用を支援し、全学における関連の研究・教育の推進を図る。

2.2.12.2. 活動内容

(1) データ解析・情報システム環境整備支援

- (ア) 災害発生時に JAXA から緊急入手する衛星データを学内解析担当者に配布し、各担当者から出力された解析結果を山口県の防災担当部署からダウンロードするための災害情報提供システムの構築（工学部技術部との協力）。
- (イ) JAXA-山口大学-山口県の三者による「平成 30 年度衛星データ防災利用情報伝達訓練」に参加し、上記システムを用いたデータダウンロード試験、および、結果を踏まえたダウンロード所要時間の短縮等の改良を実施。
- (ウ) 関連する調整会議への参加等。

(2) 解析ツール支援

汎用的な衛星データ解析ツールとして、ENVI/IDL のライセンス管理・運用を継続（保守契約はなし）。

2.2.12.3. その他

本プロジェクトは、YUCARS 情報システム部門の支援として、工学部技術部と協力のもと実施した。

平成 30 年 4 月 17 日



2.2.13. 衛星リモートセンシングデータ利用推進

【D.業務・教育研究課題】

江口 毅

大学情報機構 メディア基盤センター 助教

eguchi.t@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

今岡 啓治

大学情報機構 メディア基盤センター 准教授

担当：講習会の実施補佐

k.imaoka@yamaguchi-u.ac.jp

爲末 隆弘

大学情報機構 メディア基盤センター 准教授

担当：講習会の実施補佐

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

久長 穰

大学情報機構 メディア基盤センター 教授

担当：講習会の実施補佐

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

大学情報機構 メディア基盤センター 技術職員

担当：講習会の実施補佐

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

大学情報機構 メディア基盤センター 技術職員

担当：講習会の実施補佐

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

大学情報機構 メディア基盤センター 技術専門

担当：講習会の実施補佐

momo@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.13.1. プロジェクト概要

現在、山口大学において衛星リモートセンシングを用いた研究は、工学部だけでなく理学部や農学部、経済学部等、多分野にわたって行われている。しかし、その数はまだ少なく普及の余地がある。また、それぞれの研究が個々で行われており、研究分野の垣根を超えた取り組みが活発化していない。

そこで、学内において衛星リモートセンシングデータの利用に関心がある学部生や大学院生を対象に講習会・講演会を開催する。講習会を通して衛星リモートセンシングに関心を持ってもらい、データ利用の推進を図る。また、講演会では学外からも参加を募集することで、学内にとどまらない衛星リモートセンシング研究の大きなコミュニティ形成を図る。

2.2.13.2. 活動内容

- ・平成 30 年度における講習会・講演会について

平成 29 年度において、平成 30 年度以降の講習会および講演会は応用衛星リモートセンシング研究センター主催、メディア基盤センター・工学部技術部共催の体制で実施することとなった。本年度は、今後の講習会および講演会の実施内容や実施体制について三者で検討・調整を行った。

2.2.13.3. 今後の展望

- ・講習会・講演会の実施体制を 3 者で調整する。
- ・平成 31 年度の講習会(年 2,3 回)・講演会(年 1,2 回)を計画・実施する。

平成 31 年 4 月 5 日



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.14. メディア基盤センターの BCP

【D.業務・教育研究課題】

江口 毅

大学情報機構 メディア基盤センター 助教

eguchi.t@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

今岡 啓治

大学情報機構 メディア基盤センター 准教授

担当：講習会の実施補佐

k.imaoka@yamaguchi-u.ac.jp

爲末 隆弘

大学情報機構 メディア基盤センター 准教授

担当：講習会の実施補佐

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

久長 穰

大学情報機構 メディア基盤センター 教授

担当：講習会の実施補佐

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

三浦 房紀

大学院創成科学研究科 特命教員 教授

担当：講習会実施

miura@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.14.1. プロジェクト概要

南海トラフ地震は約 90-150 年の間隔で発生しており、いつ巨大地震が発生してもおかしくない状況にある。また、東海、東南海、南海の地震は連動する可能性が高く、その場合、四国や近畿地方をはじめとした西日本一帯では、東日本大震災を超える甚大な被害が予想される。山口県でも地震による激しい揺れや津波の被害が発生すると予想される。

そこで、本プロジェクトでは、南海トラフ地震による被害を想定したメディア基盤センターの BCP(Business Continuity Planning：事業継続計画)を実施する。なお、初年度である平成 29 年度は、常盤キャンパスの BCP を試験的に実施する。

2.2.14.2. 活動内容

[1]南海トラフ地震による被害予測調査

南海トラフ地震(津波)が発生した際に常盤キャンパスにおいて想定される被害(揺れ、浸水、停電等)について、宇部市が公開する被害想定に関する情報を収集し、それらをまとめた。また、併せて、その他の自然災害によって起こりうる被害についても想定される被害の調査を行い、それらをまとめた。

[2] メディア基盤センターの業務調査

メディア基盤センター(常盤)の業務およびサービスについての継続優先度の調査は実施中であるた

め、次年度以降、引き続き調査を行う予定である。

[3]メディア基盤センターで予想される被害とその対策調査

南海トラフ地震の直接的・間接的被害によるメディア基盤センターの影響について調査を行い、それらをまとめた。

しかし、業務・サービスへの被害の影響や業務・サービス継続のための対策を検討するまでには至っていない。そのため、事業・サービス継続に向けた調査および対策については次年度以降、引き続き実施する予定である。

2.2.14.3. 今後の展望

- ・ 業務・サービスへの被害の影響や業務・サービス継続のための対策について検討する。
- ・ 常盤キャンパス以外のキャンパスについても同様の調査を行い、BCP を実施する。

平成 31 年 4 月 5 日



2.2.15. コンテンツアーカイブシステム開発プロジェクト

【D.業務・教育研究課題】

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：統括

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：統括・システム構築

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.15.1. プロジェクト概要

本プロジェクトでは、次期計算機システムにおけるコンテンツアーカイブシステムの候補として、オープンソースのビデオ配信プラットフォームである **Kaltura Community Edition (CE)** を中心として、**Moodle** と連携させたシステムについて調査・開発を進めている。特に **Moodle** とのシームレスな連携に重点を置き、授業で用いるビデオ教材や、授業・研修会の記録映像を蓄積・配信するプラットフォームを実現することを目指している。

2.2.15.2. 活動内容

昨年度は **Moodle** 本部によるプラグインの公開審査を受審し、**Moodle** 本部 (**Moodle HQ**) の Web サイト上からプラグインの一般公開を開始した。これに伴い、プラグインの概要を説明するための英語版の Web ページを制作した。また、大学内では共通教育科目の映像教材、及び全学向けの研修会の記録映像がコンテンツアーカイブシステムにアップロードされ、**Moodle** 経由で視聴されている。

今年度はコンテンツアーカイブシステムの活用を促進すると共に、サーバに障害が発生した際のデータベースの復旧手順について整理した。また、5 月及び 9 月にバージョンアップを行った。

2.2.15.3. 今後の展望

現在のプラグインでは、多人数が登録されているコースにおいて視聴履歴の一覧を表示させるには数分程度の時間がかかる。このような性能面の不具合を解消する必要があると考えられる。

2.2.15.4. 研究報告

- 齊藤 他, 「**Moodle** と **Kaltura CE** を用いたコンテンツ配信システムの構築 (2)」, 大学 ICT 推進協議会 2018 年度年次大会, 2018 年 11 月.

2.2.15.5. 参考文献

なし

2.2.15.6. その他

- 2018 年度ベスト・ムードル・イノベーション賞佳作賞，2019 年 3 月

平成 31 年 4 月 2 日



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.16. 講義収録ソフトウェア開発プロジェクト

【D.業務・教育研究課題】

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：統括

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：統括・システム構築

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.16.1. プロジェクト概要

本プロジェクトは、講義・講演を収録するソフトウェアの開発と運用を通じて、通常の授業や各種の講演・行事の内容をデジタルアーカイブとして蓄積し、授業や研修に対する e-Learning の効果を向上させることを目的としている。

2.2.16.2. 活動内容

昨年度は収録用の貸し出し機材を整備すると共に、利用説明書を作成した。また、講義収録装置と講義収録ソフトウェアを含めたサービスを「講義収録サービス」と位置付け、これらの内容を紹介するために Web ページの改訂を実施した。

今年度は一部の授業、研究会、学会等において講義収録ソフトウェアを用いた収録が行われた。また、全学向けの研修会等が講義収録装置を用いて収録された。

2.2.16.3. 今後の展望

今後の課題として、講義収録装置の活用を含めた講義収録サービスの広報と普及が挙げられる。

2.2.16.4. 研究報告

- 齊藤 他, 「山口大学における講義映像収録サービスの開発と運用 (2)」, 大学 ICT 推進協議会 2018 年度年次大会, 2018 年 11 月.

平成 31 年 4 月 2 日

2.2.17. UPKI 電子証明書発行申請サービス

【NP.業務課題】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：システム構築・運用支援・登録

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：システム構築・運用支援・登録

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：システム構築・運用・申請受付

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：システム構築・運用・申請受付

momo@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：システム構築・運用・申請受付

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：申請受付

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：申請受付

morinaga@yamaguchi-u.ac.jp

東 美織

メディア基盤センター・事務補佐員

担当：申請受付

harigae@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.17.1. プロジェクト概要

平成 27 年 1 月より開始された国立情報学研究所の UPKI 電子証明書発行サービスの利用を現在も継続している。本プロジェクトでは、サーバ証明書発行申請に関する業務を行う。また、本サービスでは、従来の OV (Organization Validation) 証明書に加えて、クライアント証明書やコードサイン証明書、さらには EV (Extended Validation) 証明書の発行が可能となっており、本学におけるこれらの証明書の提供について検討する。

2.2.17.2. 活動内容

- ・ サーバ証明書の発行・更新・失効申請に関する業務を行った。
- ・ クライアント証明書の発行・更新・失効申請に関する業務を行った。

- ・ ECDSA サーバ証明書について検討した。

平成 31 年 4 月 9 日



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.18. IC カード

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.18.1. プロジェクト概要

教職員用の IC カードの発行は大学情報機構で対応していますが、他の機器や導入の関係で、必要経費はメディア基盤センターで対応している。この IC カードを利用した、「入室管理システム」「出席管理システム」などのアプリケーションの整備、運用を行っている。これまでの、アプリケーションの導入は次のとおりである。

・ IC カード管理システム

教職員は、発行・再発行及び関連システムとの連携について、一貫した管理を行なう。

学生は、生協が発行する情報を取得し、関連システムと連携を行なう。

図書館の入室ゲートや図書館システムなどの IC カードによる認証系のシステムとの連携を行なっている。

・ 入室管理システム

建物及び部屋の開錠に IC カードをもちい、入室者、開錠、施錠、開扉、閉扉なので状態をログとして記録する。

17 年度 メディア基盤センター吉田センターと常盤センターの玄関に IC カードによる入退室機器を設置。

18 年度 吉田地区及び常盤地区のサーバ室及び業務室に設置。

- 19 年度 小串地区サーバ室及び事務室に設置。
- 20 年度 業者委託体制の推進
- 25 年度 複合機カード・貸出カード等の業者委託調整
- 26 年度 出退勤記録用に改修
- 27 年度 特別支援学校及び附属山口中学校において、出退勤記録用にシステムの運用を開始
非正規生に対する学生証（IC カード）発行
- 28 年度 JAXA 研究室、共同獣医学部解剖実習棟に改変した入室管理システムを設置
- 30 年度 工学部事務室設置

・出席管理システム

세미나、講習会の出席者確認のため、IC カードリーダー付きのノート PC に IC カードをかざすことで、出席者の一覧を作成するプログラムを開発し、運用等を行っている。

メディア基盤センター3センター以外にも、各部局「医学部」「農学部」「工学部」等で利用されている。

学生の出席確認システムへの協力

大学教育センター、医学部、工学部（一部実験）

・応用分野の開拓

例：機器使用履歴管理、パスワード再発行など

2.2.18.2. 活動内容

1. 引き続き、IC カード関連システムの維持運用につとめた。



2.2.19. TV 会議及び遠隔講義システム維持・保守

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

担当：

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：

momo@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

Kayo0217@yamaguchi-u.ac.jp

東 美織

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

harigae@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.19.1. プロジェクト概要

現在では、TV 会議や遠隔講義は日常的に利用されており、障害が発生すると、大学の活動に支障をきたす状況になってきている。

大学内には、TV 会議システムとして次の 3 システムがある。

- ・第 1TV 会議(平成 7 年度導入、20 年度改修)
- ・第 2TV 会議(3 地区図書館、大学教育センター) 25 年度改修

- ・メディア基盤センターTV 会議(3 地区メディア基盤センター)
- ・東京リエゾンオフィス(現東京事務所)TV 会議

遠隔講義システムは、以下のシステムが導入された。

- ・共通教育用遠隔講義(平成 9～10 年度導入、21 年度改修)
- ・大学院用遠隔講義(平成 18 年度導入、22 年度一部改修)
- ・農学部遠隔講義
- ・共同獣医学部遠隔講義
- ・教育学部遠隔講義
- ・ウダヤナ大学(インドネシア)・工学部間遠隔講義(平成 22 年度導入)

平成 22, 25 年度の改修以降は接続方式の共通化を行っており、TV 会議システム及び遠隔講義システムのそれぞれの会議室・講義室間での相互接続が可能となっており、教室の収容人員、設置場所、空き状況に応じて講義室が利用されており、遠隔講義は任意の組み合わせで実施される。現在、相互接続可能でよく利用される学内の遠隔講義システム及び TV 会議システムを以下にまとめる。

・遠隔講義室・TV 会議室一覧 2019 年 4 月現在

講義室

地区	棟	階	部屋
吉田	共通教育講義棟	1	1 番教室
	メディア教育棟	1	メディア講義室
	メディア教育棟	2	演習室 2
	理学部 2 号館	1	第 15 講義室
	農学部本館	4	第 6 講義室
	農学部本館	4	第 7 講義室
	大学会館 1	大ホール	
常盤	E 講義棟	3	E31 講義室
	D 講義棟 1		D11 講義室
	D 講義棟 2		D21 講義室
	D 講義棟 3		D31 講義室
	C 講義棟	1	C11 講義室 (2015 年度設置)
小串	講義棟 C(臨床講義棟)	2	第 3 講義室
	総合研究棟	8	多目的室
	総合研究棟	1	S1
	総合研究棟 A	1	第 1 講義室(2018 年度設置)
	総合研究棟 A	2	第 2 講義室(2018 年度設置)

会議室

地区	棟	階	部屋
吉田	事務局 1 号館	2	第 1 テレビ会議室
	事務局 1 号館	4	特別大会議室 (2015 年度設置)
	共通教育棟	2	第 2 テレビ会議室
	総合図書館	3	第 2 テレビ会議室
	事務局 2 号館	2	情報企画課電子計算機室前室
	メディア教育棟	3	テレビ会議室
常盤	会議棟 1		テレビ会議室
	工学部図書館	1	第 2 テレビ会議室
	メディア基盤センター棟	2	テレビ会議室
小串	医学部本館	6	テレビ会議室
	医学部図書館	2	第 2 テレビ会議室
	基礎研究棟	1	メディア基盤センター事務室
その他	東京事務所		TV 会議室(2015 年度改修)
	MOT 福岡教室		
	MOT 広島教室		

なお、ここに示したものの以外のシステムも存在している。

これらのシステムの安定運用を図るために、適宜、故障機器の交換や、より安定化などの日常的な対応を行う。

2.2.19.2. 活動内容

1. 小串第 3 講義室講師カメラ修理した。
2. 吉田センター TV 会議室プロジェクターを修理した。
3. 多地点装置を導入した。
4. 引き続き、TV 会議、遠隔講義システムの運用・維持に努めた。
5. 他組織(放送大学・JICA 等)との遠隔講義や TV 会議が多く行われるようになり支援を行った。
6. 山口県、県立高校等への TV 会議導入に伴い接続テスト等を実施した。
7. 28 年度電子計算機システムの導入に伴い、多地点接続サーバの調整を行っている。

YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.20. 迷惑メール対策システム

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：

momo@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.20.1. プロジェクト概要

18 年度に導入した迷惑メール対策サーバの迷惑メールパターンファイルを随時更新する必要があります。
スパムメールへの当面の対応策を検討し実施するとともに、高性能のスパムフィルタの開発に関する基礎的研究を実施する。

【これまでの経緯】

平成18年8月 7日 迷惑メール対策サーバ説明会

9月26日 試行機により試行開始

タグ付けサービスの開始

10月23日 本稼動機による試行の継続

平成19年4月12日 隔離サービスの開始

平成19年11月4日 宛先不明メール受信拒否の実施(学外発学内向メール)

平成20年7月15日 対策サーバの2重化

平成20年10月 メーリングリスト学内限定措置の実施(希望者のみ)

平成27年2月24日 新サーバ (SPAM & VIRUS FIREWALL Plus 400) を導入・設置

平成27年3月5日 2015年3月5日 新サーバの再調整・動作検証開始

平成27年4月1日 新サーバ運用開始

【迷惑メール対策サーバ】

BARRACUDA 社 SPAM FIREWALL 400

BARRACUDA 社 SPAM FIREWALL Plus 400 (2015/4/1～)

筐体とサーバソフトが一体となったアプライアンス商品

定期的(1時間毎)に迷惑メールのパターンファイルを更新し、常に新しい迷惑メールに対応している。

【タグ付けサービス】

迷惑メール対策サーバが迷惑メールと判定したメールについては、サブジェクトに[YU-SPAM-CHK]のタグをつけて利用者へ配送

【隔離サービス】

迷惑メール対策サーバが迷惑メールと判定したメールについては、配送を保留し、利用者には配送しない。

1 日に 1 回、1 日分の配送保留メールのリストをメールで送り、利用者が必要なメールがあるかどうか確認する

必要なメールがある場合、「配送」をクリックすることで、利用者に配送される。

隔離スコアを調整することにより、隔離メールの度合いを調整できる

【利用者数】 977 人(平成 28 年 4 月 23 日) 944 人(平成 28 年 4 月 25 日) 1,008 人(平成 27 年 4 月 6 日)
1,033 人(平成 21 年 5 月 31 日)

2.2.20.2. 活動内容

ソフトウェアライセンス更新。



2.2.21. 全学ネットワークの維持・保守

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

王 躍

メディア基盤センター・准教授

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

担当：

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：

momo@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

守永 佳代

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

morinaga@yamaguchi-u.ac.jp

東 美織

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：

harigae@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.21.1. プロジェクト概要

全学の学内 LAN 及び対外接続等の学内のネットワーク(部屋内のネットワークをのぞく)への維持・管理・運営を行っている。障害・故障への対応や、利用需要にあわせた機器の増設、通信容量の増強等を行っている。

全学の学内 LAN の中でメディア基盤センターが保守しているのは、下記のとおりである。

1. 吉田・常盤・小串地区においては、幹線部分と、建物の機器室までの部分
(機器室から各部屋への配線は施設及び各学部で、部屋内については、部局及び研究室で対応)
(新規建物や改築等で導入する場合は、機器は部局、配線は施設が対応するが、
その後、機器についてはメディアが対応)

2. 附属学校においては、幹線部分(機器室含む)

ただし、耐震改修等が終了し、大学標準のネットワーク構成となった学校については(山口中学校、
光中学校)

主要キャンパスと同様な厚いかとなっている。

3. 仁保にある電波天文台および東京リエゾンオフィス(現東京事務所)等の幹線部分
4. 学外接続

2016 年 3 月 SINET5 に切り替える(40Gbps に増強)

2.2.21.2. 活動内容

1. 幹線ネットワーク機器、支線ネットワーク、無線 LAN コントローラ等の機器を導入した。(設置は
2019 年度)
2. ビックデータを扱う部分に対してネットワークの増速(100Mbps→1Gbps)を図った。
3. 事務系のネットワーク、新規導入・改修サーバについては、標準でプライベート IP の払い出しを進
めた。
4. 引き続きネットワークの運用・維持に努めた。
5. 大学通りの道路改修において本学所有の光ファイバの地下埋設工事への対応を進めた。

2.2.22. 各種サーバ（大容量サーバ・メールサーバ等）の維持・保守

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

担当：

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：

momo@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.22.1. プロジェクト概要

メディア基盤センターがサービス提供しているメールサーバ及び大容量サーバは、日常的に利用されており、常に安定的に運用する必要がある。

メールサーバや大容量サーバは大容量の HDD を有し、RAID1 及び RAID10 で運用しているので、HDD が 1 台故障してもすぐ動作停止にはつならないが、その際、HDD を交換する必要がある。本体が壊れた場合は、予備機に HDD を交換し稼働させる必要がある。

また、大容量サーバは、利用者がディスクスペースとして利用しているので、利用頻度が上がれば容量が不足してくる。そのため、常に HDD の増設、機器の増設が必要である。

利用者、利用量の増加に伴い、性能が不足する場合が発生してきている。性能が不足するものについては、機器を 2 重化するなど、性能改善の対策が必要である。

大容量サーバは、山口大学や各部局等のホームページや職員ポータルなどに利用されている。

メールサーバは、全学公式メールアドレスのサーバとともに、本学内外へのメール配送を制御に利用され

ている。

認証サーバは、全学共通の認証システムのサーバとして学内に認証を提供している。

2.2.22.2. 活動内容

1. 各サーバのハードディスクの増強を行った。
2. メールサーバの更新を進めた。
3. シングルサインオン用の認証サーバの活用を推進した。
4. 学外から安全にネットワークフォルダーにアクセスできるサービスの活用を推進するとともに、大学教職員においては標準で領域を利用できるように検討を進めた。
5. ホスティング及びハウジングのメニューに基づいて、サーバの運用・維持を行うとともにプライベートクラウドサーバの活用を進めた。
6. 学内の情報システムについて全学クラウドシステムへ移行を進めた。
7. 老朽化・高負荷なサーバへの対応を優先しておこない、プライベートクラウドサーバに移行できるものについては随時移行を進めた。



2.2.23. サーバ室主要部分の設備維持

【NP.業務課題】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

為末 隆弘

メディア基盤センター・助教

担当：

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：

wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.23.1. プロジェクト概要

メディア基盤センター常盤センターサーバ室には、全学にサービスを提供しているネットワーク機器及びサーバ機器が存在する。それぞれ、ネットワーク用ラック、サーバ用ラックに設置されている。

平成 19 年に、学内及び学外の幹線ネットワーク機器の配線と機器を収容しているラックの耐震等の工事を行っている。

平成 23 年度にサーバ用ラックについて、耐震等の工事を行った。

平成 25 年度に吉田センターサーバ室を情報企画課サーバ室へ移転を進めている。また、「学術情報資産の効率性・安全性確保のためのクラウド化による集約管理システムと省エネルギー設備」を導入した。これらが実際に 26 年度から稼働を開始した。稼働にあたって必要な運用管理及び維持保守を行う。

平成 26 年度には、情報企画課サーバ室及び常盤センターサーバ室の電源工事等を実施した。

平成 27 年度には、吉田地区電話交換機室の大型蓄電池の交換を行った。

平成 28 年度には、常盤地区メディア基盤センターサーバ室の 2 台のうち 1 台、および小串電話交換機室の大型蓄電池の交換を行った。

2.2.23.2. 活動内容

1. 平成 30 年度には、常盤地区メディア基盤センターサーバ室の残りの 1 台の大型蓄電池システムの交換を行い、常盤地区、吉田地区各サーバ室の大型蓄電池システム(平成 25 年度導入)の電池を交換した。
2. 常盤サーバ室の空調機の修理を行った。
3. 吉田地区サーバ室に 200V の追加電源工事を行った。
4. サーバ・ネットワークラック向けの電源を全学クラウド電源からの回路を増設し、各機器の冗長電源を移行した。

5. 吉田センターサーバ室の移転、「学術情報資産の効率性・安全性確保のためのクラウド化による集約管理システムと省エネルギー設備」の開始に伴い、運用管理及び保守維持を行った。
6. サーバ室のラック、配線、空調等、サーバ室に関連する運用・維持に努めた。
7. **JAXA** 山口分室の設置に伴い、**JAXA** サーバ、ネットワーク、アンテナ、研究室、分室等に対応した。



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.24. 高速計算サービス運用プロジェクト

今岡 啓治

メディア基盤センター・准教授

k.imaoka@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：計算機クラスタ環境整備

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

江口 毅

メディア基盤センター・助教

担当：計算機クラスタ環境整備・運用

eguchi.t@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

担当：計算機クラスタ環境整備・運用

momo@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：計算機クラスタ環境整備・運用

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐員

担当：利用登録・管理

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.24.1. プロジェクト概要

科学・技術計算を必要とする研究・教育活動支援のために、計算環境の整備・提供および支援を行う。

2.2.24.2. 活動内容

(1) 研究用計算システム利用サービスの実施

メディア基盤センター計算機クラスタ，および九州大学研究用計算機の利用資源を学内向けに提供するサービスを実施した。

(2) 計算機クラスタの保守、整備、および利用者支援

メディア基盤センター計算機クラスタに関する保守・整備，ならびに利用者支援を実施した。

(3) 九州大学情報基盤研究開発センターとの包括契約

前年度に引き続き，同センターが有する研究用計算機（スーパーコンピュータシステム ITO）の利用に関する包括契約を行い，学内向けサービスを提供した。以下に提供リソースを記す。

・平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

サブシステム A： 6 ノード（占有）

サブシステム B： 4 ノード（共有）

基本フロントエンド： 8CPU×24 時間
大容量フロントエンド： 8CPU×24 時間
ディスククォータ： 30TB

また、下記の講習会を実施した。データサイエンス利用を念頭に、従来の内容に加え、GPU の利用方法の紹介などを追加いただいた。

件名：スーパーコンピュータシステム ITO 利用講習会
日時：2018 年 12 月 6 日(木) 13:30～17:30
講師：九州大学 情報基盤研究開発センター准教授 南里 豪志 先生
場所：山口大学 常盤キャンパス 工学部図書館 2F インフォメーションルーム

平成 30 年 4 月 17 日



2.2.25. IC カード出席管理システムを用いた登校状況の確認実験

【D.業務・教育研究課題】

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

多田村 克己

メディア基盤センター・センター長

担当：統括

tadamura@yamaguchi-u.ac.jp

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：統括・システム構築

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

為末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：システム構築・運用

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：システム構築・運用

momo@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.25.1. プロジェクト概要

現在、本学では学生証を利用した出席管理システムの整備が進められており、大学教育センター、医学部、農学部、工学部(一部)等で運用されている。学生証を利用した出席管理システムを整備することにより、不登校学生を早期に発見することが可能になる。

しかしながら、現在使用されている IC カードリーダー「SMRT-43N」はすでに開発・販売が終了しており、後継となる機種もない。メディア基盤センターにある予備品も残りわずかとなってしまうことから、代替となる IC カードリーダーの選定と動作検証が急務である。

2.2.25.2. 活動内容

今年度はマースウィンテック製の「MWU-4000 (Linux 版)」を入手し、学生証の読み取り、出席管理システムとの連携について検証した。読み取り速度、ならびにサーバ側との連携には問題はなかったが、この製品は小ロット生産ができないため、本学における調達・設置の状況に適していない。

そこで新たに「MWU-4000 (Android 版)」を購入した。

2.2.25.3. 今後の展望

2019 年度は「MWU-4000 (Android 版)」について IC カードの読み取りプログラムを作成し、サーバ側との連携について検証する。

平成 31 年 4 月 2 日

2.2.26. ウェブメールの管理・保守

【NP.業務課題】

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：メール・認証・ファイルサーバ等調整

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

爲末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：サーバ構築・管理・保守

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

金山 知余

メディア基盤センター・技術職員

担当：サーバ構築・管理・保守

kaneyama@yamaguchi-u.ac.jp

西村 世志人

メディア基盤センター・技術職員

担当：サーバ構築・管理・保守

momo@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.26.1. プロジェクト概要

2017 年度末で従来のウェブメールが運用終了し、今年度より完全移行した新しいウェブメールについて、サーバの管理、保守および増強等を行う。また、不正利用の予防、被害軽減を目的としたシステムを構築、導入を目指す。

2.2.26.2. 活動内容

不正に取得されたアカウント情報を利用したウェブメールの不正利用対策として、ウェブメールからメールを送信する際、1 通あたりに指定できる送信先件数の制限、およびメール送信後一定時間経過しなければ次のメールを送信できないようにする制限を設定し、万一不正利用された場合に被害、影響が軽減されるような対策を行った。不正利用を検知するようなシステム構築、導入等は今後も検討する。

ウェブメールサービスを提供しているサーバの一部に障害が発生した際、サービスが出来なくなるという事態が発生した。そのため、サーバ構成の見直しを図り、万一一部のサーバに障害が発生しても安定的にサービス提供できるようなサーバ構成になるよう見直しを行い、一部のサーバに設定変更を加えた。特に、従来は接続元 IP アドレスにより振り分けられるサーバの FQDN が `wm1.cc.yamaguchi-u.ac.jp`、`wm2.cc.yamaguchi-u.ac.jp`、`wm3.cc.yamaguchi-u.ac.jp` とバラバラであったが、例えばブックマークから直接振り分け先のウェブメールサーバへ接続するような利用をされた場合に、その振り分け先に障害が発生していると接続できない状態になってしまっていたが、変更後は `webmail.cc.yamaguchi-u.ac.jp` でいずれも接続されるように変更し、障害が発生しているサーバは除外して問題ないサーバへ接続されるようにした。設定が未完了のサーバが残っているため、今後サーバの負荷状況等をみて順次設定を変更していく予定である。

2.2.26.3. 今後の展望

- ウェブメールサービスをより安定的に提供するため、振り分けサーバの追加、サーバ処理上限等の設定見直し。
- 不正取得されたアカウントによるウェブメールの不正利用防止、被害軽減のため、早期検知システムの検討および導入。

平成 31 年 4 月 22 日



YAMAGUCHI UNIVERSITY

2.2.27. 常盤センターサーバー室空調保守報告書

【NP.業務課題】

西村 世志人

メディア基盤センター・技術専門職員

momo@yamaguchi-u.ac.jp

【プロジェクトメンバー】

久長 穰

メディア基盤センター・教授

担当：管理・計画

hisa@yamaguchi-u.ac.jp

爲末 隆弘

メディア基盤センター・准教授

担当：管理・計画

tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

今岡 啓治

メディア基盤センター 准教授

担当：管理・計画

k.imaoka@yamaguchi-u.ac.jp

齊藤 智也

メディア基盤センター・助教

担当：管理・計画

t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

末長 宏康

メディア基盤センター・技術職員

担当：計画の実施

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

奥本 紀美子

メディア基盤センター・技術補佐

担当：実施の補佐

okumoto@yamaguchi-u.ac.jp

2.2.27.1. プロジェクト概要

常盤センターではサーバーなど多くの機器が稼働しており、空調が安定稼働のために必須となっている。このため、空調の障害対策が重要であり、そのための保守対応を実施する。また、サーバー室の温度・湿度について、適切な環境を維持するための、障害対策を実施する。

2.2.27.2. 活動内容

空調保守点検の実施を行い、システムに障害が無いことを確認した。

2.2.27.3. 今後の展望

引き続き空調保守点検などを実施することで、安全にシステムを運用することに努める

平成 31 年 4 月 19 日

3. センタースタッフ紹介

3.1. スタッフ一覧

	センター長・教授 ^(*)	多田村 克己
常盤センター	副センター長・教授 ^(*)	今井 剛
	准教授	爲末 隆弘
	准教授	今岡 啓治
	助教	江口 毅
	技術専門職員	西村 世志人
	技術職員	末長 宏康
	技術補佐員	奥本 紀美子
吉田センター	副センター長・教授 ^(*)	西井 淳
	教授	久長 穰
	助教	齊藤 智也
	技術専門職員	金山 知余
	技術補佐員	守永 佳代
小串センター	副センター長・教授 ^(*)	藤宮 龍也
	准教授	王 躍
	技術補佐員	東 美織

*は兼任スタッフ

3.2. スタッフ紹介

王 躍 (小串センター)

E-mail : wangyue@yamaguchi-u.ac.jp

1. 主な研究内容

- ・ 計算機科学の基礎的理論である形式言語, オートマトン, 計算複雑さ, アルゴリズム解析に関する研究
- ・ 最近, 関数プログラム言語, 型理論を用いたプログラム意味論などに興味がある

2. 学会活動・産学連携・地域貢献

2.1 所属学会

- ・ 情報処理学会
- ・ 電子情報通信学会

2.2 研究成果(論文・著書・講演・学会発表など)

- ・ 王躍, 小柏香穂理, 刈谷丈治, 小河原加久治, 「OSS に基づいた Moodle サイトのスケーラビリティに関する報告」, 情報処理学会・研究報告インターネットと運用技術 (IOT) , 2011-IOT-14(2), 1-5, 2011
- ・ 小柏香穂理, 王躍, 刈谷丈治, 小河原加久治, 「Moodle サーバの負荷テスト」, 教育システム情報学会・第 36 回全国大会講演論文集, 334-335, 2011
- ・ 王躍, 久長穰, 小河原加久治, 「マルチドメインによる Mailman メーリングリスト のセキュリティ対策」, 平成 22 年度第 2 回 (IOT 通算第 10 回) 研究会(2010,7).
- ・ 王躍, 小柏香穂理, 刈谷丈治, 小河原加久治, 「Moodle 小テスト時の負荷シミュレーションテスト」, 平成 22 年度第 2 回 (IOT 通算第 10 回) 研究会(2010,7)
- ・ Y.Wang, K.Inoue, A.Ito and T.Okazaki, "A Note on Senesing Semi-one-way Simple Multihead Finite Automata", IEICE TRANS. INF. & SYST., Vol.E84-D, No.1, pp.57-60 (2001, 1)

2.3 産学連携・地域貢献

なし

3. 主な業務内容

3.1 業務内容・委員会活動

- ・ 研究および教育で用いる計算機システムに関する支援.

3.2 センタープロジェクト (主担当分)

- ・ Moodle 関連プロジェクト

- ・ ISMS 研究会

4. 教育活動

4.1 担当科目

- ・ 情報リテラシー演習
- ・ 情報セキュリティ・モラル
- ・ アルゴリズム特論
- ・ プログラミング基礎
- ・ プログラミング言語
- ・ 情報・デザイン工学特別講義

4.2 その他

- ・ なし



YAMAGUCHI UNIVERSITY

爲末 隆弘 (常盤センター)

e-mail: tamesue@yamaguchi-u.ac.jp

主な研究内容

1. 音響雑音に対する生理的・心理的評価
2. 頭部・外耳道伝達関数を用いた空間音響制御

学会活動

所属学会

電子情報通信学会, 日本音響学会, システム制御情報学会, 騒音制御工学会, 日本人間工学会

研究成果 (学会発表, 論文, 著書等)

- ・ 為末隆弘, 佐伯徹郎, 有意味・無意味騒音が精神作業課題に対する選択的注意に及ぼす影響, システム制御情報学会論文誌, 30, 7, 293-295 (2017)
- ・ Takahiro Tamesue, Investigation of selective attention to auditory cognitive task under meaningful or meaningless noise, Proceedings of 46th International Congress and Exposition on Noise Control Engineering 6923-6928 (2017.8)
- ・ Takahiro Tamesue, Effects of meaningful or meaningless noise on selective attention to auditory cognitive task, Proceedings of Joint 17th World Congress of International Fuzzy Systems Association and 9th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems (2017.6)
- ・ 齊藤智也, 王躍, 金山知余, 末長宏康, 西村世志人, 為末隆弘, 江口毅, 今岡啓治, 久長穰, 多田村克己, 山口大学における講義映像収録サービスの開発と運用, 大学 ICT 推進協議会 2017 年度年次大会 (2017.12).
- ・ 齊藤智也, 王躍, 西村世志人, 末長宏康, 金山知余, 為末隆弘, 江口毅, 今岡啓治, 久長穰, 多田村克己, Moodle と Kaltura CE を用いたコンテンツ配信システムの構築, 大学 ICT 推進協議会 2017 年度年次大会 (2017.12).
- ・ 佐久間規彰, 佐伯徹郎, 為末隆弘, 加藤裕一, 音声とマスキング用雑音の到来方向を考慮した主観的等価値によるスピーチプライバシー評価, 第 68 回電気・情報関連学会中国支部連合大会講演論文集 (2017.10).
- ・ 中村篤, 佐伯徹郎, 為末隆弘, 加藤裕一, 遮音システムとマスキングノイズを用いたスピーチプライバシー保護のための評価指標, 第 68 回電気・情報関連学会中国支部連合大会講演論文集 (2017.10).
- ・ 久保田雅充, 為末隆弘, 佐伯徹郎, 加藤裕一, 有意味・無意味騒音が精神作業時の選択的注意に及ぼす影響, 日本音響学会 2017 年秋季研究発表会講演論文集, 757-758 (2017.9).
- ・ 井上睦月, 為末隆弘, 佐伯徹郎, 加藤裕一, 多変量解析に基づく耳鳴を表現するための擬声語に関する一考察, 日本音響学会 2017 年秋季研究発表会講演論文集, 755-756 (2017.9).

主な業務内容

センタープロジェクト

(プロジェクトリーダー分)

- ・ 大学間バックアップ実験プロジェクト
- ・ 学内バックアッププロジェクト
- ・ UPKI 電子証明書発行申請サービス
- ・ 演習用計算機システムの保守・管理
- ・ 学認フェデレーションプロジェクト

教育活動

担当科目：情報セキュリティ・モラル，プログラミング II，音響情報工学特論，データベース特論，システムデザイン工学特別講義，情報・デザイン工学特別講義，メディア情報工学特論，先端知能情報メディア工学特論 I



YAMAGUCHI UNIVERSITY

今岡 啓治 (常盤センター)

E-mail : k.imaoka@yamaguchi-u.ac.jp

1. 主な研究内容

- ・ 宇宙地球計測学：人工衛星からのリモートセンシング技術，処理アルゴリズム，および地球環境監視への応用に関する研究．特に，マイクロ波放射計とその大気科学応用を主体．

2. 学会活動・産学連携・地域貢献

2.1 所属学会

- ・ 日本リモートセンシング学会
- ・ 日本天文学会
- ・ 日本地球惑星科学連合
- ・ IEEE Geoscience and Remote Sensing Society

2.2 研究成果（論文・著書・講演・学会発表など）

- ・ 青戸亮太，小河原加久治，新銀秀徳，今岡啓治，「千葉県における干渉 SAR を用いた時系列解析による地表変動観測」，第 35 回センシングフォーラム，計測自動制御学会，宇部，2018.
- ・ 岸田侑子，小河原加久治，今岡啓治，新銀秀徳，「ひまわり 8 号の高頻度観測データを用いた降水雲の時間変化解析」，第 35 回センシングフォーラム，計測自動制御学会，宇部，2018.
- ・ 今岡啓治，可知美佐子，「AMSR 時空間データを用いた変動パターン解析」，2019 年電子情報通信学会総合大会，東京，2019.
- ・ M. Seki, M. Hori, K. Naoki, M. Kachi, and K. Imaoka, "A 40-year sea ice product standardized by AMSR series passive microwave radiometers," AGU Fall Meeting, Washington, D.C., U.S.A., 2018.

2.3 産学連携・地域貢献

- ・ 宇宙航空研究開発機構地球環境変動観測ミッション AMSR 後継機センサチーム委員会 委員
- ・ 宇宙航空研究開発機構第 1 回地球観測研究公募 共同研究「AMSR2 の C 帯データにおける電波干渉識別手法の改善」
- ・ 山口県衛星リモートセンシング防災利用推進協議会 委員

3. 主な業務内容

3.1 業務内容・委員会活動

- ・ 大規模データを含む学術情報の活用推進，および科学技術計算基盤に関する業務
- ・ 大学情報機構 図書館専門委員会

3.2 センタープロジェクト（主担当分）

- ・ 高速計算サービス運用プロジェクト
- ・ データサイエンス解析に関する調査・検討

4. 教育活動

4.1 担当科目

- ・ データ科学と社会Ⅱ
- ・ 機械航空工学概論
- ・ リモートセンシング特論
- ・ システム・デザイン工学特別講義

4.2 その他

- ・ なし



YAMAGUCHI UNIVERSITY

齊藤 智也 (吉田センター)

E-mail : t-saito@yamaguchi-u.ac.jp

1. 主な研究内容

- ・ 通信システム及び計算機システムの性能評価・改善に関する研究
- ・ 通信プロトコルに関する研究
- ・ 情報ネットワークを活用した教育支援システムに関する研究

2. 学会活動・産学連携・地域貢献

2.1 所属学会

- ・ IEEE
- ・ 電子情報通信学会
- ・ 日本ムードル協会

2.2 研究成果（論文・著書・講演・学会発表など）

- ・ 齊藤智也，王躍，久長穰，多田村克己，「Moodle 用データベースのシステム構成に関する検討」，ムードルムート 2019，2019 年 3 月．
- ・ 齊藤智也，王躍，金山知余，末長宏康，西村世志人，爲末隆弘，江口毅，今岡啓治，久長穰，多田村克己，「山口大学における講義映像収録サービスの開発と運用（2）」，大学 ICT 推進協議会 2018 年度年次大会，2018 年 11 月．
- ・ 齊藤智也，王躍，西村世志人，末長宏康，金山知余，爲末隆弘，江口毅，今岡啓治，久長穰，多田村克己，「Moodle と Kaltura CE を用いたコンテンツ配信システムの構築（2）」，大学 ICT 推進協議会 2018 年度年次大会，2018 年 11 月．

2.3 産学連携・地域貢献

なし

3. 主な業務内容

3.1 業務内容・委員会活動

- ・ Moodle システムの運用および関連システムの開発
- ・ 情報セキュリティに関連する各種資料及び教材の制作
- ・ 埋蔵文化財資料館専門員会委員

3.2 センタープロジェクト（主担当分）

- ・ ネットワークマナーブック改訂

- ・ コンテンツアーカイブシステム開発プロジェクト
- ・ 講義収録ソフトウェア開発プロジェクト
- ・ IC カード出席管理システムを用いた登校状況の確認実験

4. 教育活動

4.1 担当科目

- ・ データ科学と社会Ⅱ

4.2 その他

- ・ なし



YAMAGUCHI UNIVERSITY

江口 毅 (常盤センター)

E-mail : eguchi.t@yamaguchi-u.ac.jp

1. 主な研究内容

- (1) 光学センサ画像を用いた早期土砂災害検出
- (2) SAR 画像を用いた早期土砂災害検出

2. 学会活動・産学連携・地域貢献

2.1 所属学会

- ・ 日本自然災害学会, 土木学会, 日本リモートセンシング学会

2.2 研究成果(論文・著書・講演・学会発表など)

- (1) 江口毅, : 災害発生後の光学センサ画像および SAR 画像を用いた土砂災害検出手法の開発, 博士学位論文, 2019.

2.3 産学連携・地域貢献

なし

3. 主な業務内容

3.1 センタープロジェクト(主担当分)

- ・ メディア基盤センターの BCP
- ・ 衛星リモートセンシング講習会

4. 教育活動

4.1 担当科目

- ・ ものづくり創成実験Ⅰ, 循環環境工学実験Ⅰ, 循環環境工学実験Ⅱ

4.2 その他

- ・ なし

YAMAGUCHI UNIVERSITY